

# 宮崎兄弟資料館だより

2014/08/31

## 発刊にあたって

平成23年の辛亥革命100周年から3年が経ちましたが、これを契機に近年は辛亥革命研究をはじめ、近代東アジア史、さらに近代東アジアにおける思想に関する研究が盛んに行われており、そのなかで、宮崎兄弟、特に宮崎滔天に関する研究成果も現れてきていると聞いております。これに伴い、近年では中国の上海やシンガポールなどとの交流事業が活発化してまいりました。当宮崎兄弟の生家施設も開館から20年が経ち、こうした状況の中で当館としては、孫文の革命活動を支援した荒尾市出身の宮崎兄弟について、これまで以上に世に広くお伝えするべきではないかと考えました。そこで、今年から年に二回、『宮崎兄弟資料館だより』を発刊することといたしました。



発刊の大きな目的は、①宮崎兄弟の生家施設についてより一層多くの方々に知って頂くこと、そして②宮崎兄弟資料館の取組み・活動を周知ののところとし、今後の発展に活かしていくことです。今後とも、御指導・御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

荒尾市教育委員会 教育長 丸山秀人

## 市長あいさつ

宮崎兄弟の生家施設は、宮崎兄弟の歴史を学ぶために来場される方はもちろん、滔天と孫文が二人で眺めたであろう梅や、滔天がシャム（現在のタイ）から持ち帰ったとされる菩提樹、毎年咲き誇る牡丹の花の鑑賞にいらっしゃる方など、市民をはじめとした多くの皆様に親しんでいただける施設として御愛顧いただいています。

昨年は、開館から20周年を迎え、この記念の年に、中華人民共和国駐日大使としては初めて程永華氏に来館していただき、また「宮崎兄弟の生家施設開館20周年記念式典」を開催した際には、宮崎兄弟の御子孫の方々、中国駐福岡総領事館の李天然総領事など多くの方に御参加いただきました。当施設がこの節目を無事迎えることができましたのも偏に、市民の皆様並びに、これまでに様々な形で御支援や御協力をいただいているの方々のおかげであり、心より感謝を申し上げます。



熊本県指定史跡である「宮崎兄弟の生家」は、自由民権思想を掲げて行動した宮崎四兄弟である、宮崎八郎・民蔵・彌蔵・滔天が生まれ育った場所です。また、滔天をはじめとした宮崎兄弟との交友から、明治30年と大正2年の2度にわたって中国の革命指導者・孫文が訪れたという歴史もあり、当施設は、平成23年の辛亥革命100周年を契機に、日中友好の懸け橋としてのシンボリックな施設として大きく注目を集めました。中国語圏からの来客や、海外の孫文関連施設から企画展示資料の出品依頼を受ける機会も増えており、今後、益々、当施設と国内外の孫文関連施設の交流が広がっていくのではないかと考えています。

荒尾市が誇る偉人・宮崎兄弟の生涯がそうであったように、日中の平和と友好のため、また、アジアにおける新たな交流の発信地として、貴重な遺産を生かしていくことが当市の重要な役割であると考えています。かつて、宮崎滔天が『三十三年之夢』を著して、中国の革命家たちの団結へと導いたように、我々も自らの取組みを館報という形にして、様々な人々や施設との関係を充実・発展させていく足がかりにしたいと思っております。

これからも、当施設へ皆様から御愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

荒尾市長 前畑淳治

# 所長あいさつ



日頃より宮崎兄弟の顕彰事業に御理解と御支援を賜り、誠にありがとうございます。

荒尾市が市制施行50周年を迎えて「宮崎兄弟の生家施設」を開館した平成5年から、昨年ようやく20年という節目の年を迎えました。私が施設長に就任してからも早10年が経ったのかと思うと、とても感慨深いものがあります。

さて、私は就任以来、生家施設を「宮崎兄弟の業績を顕彰し、日中友好に資すること」「市の施設として安らぎの場となること」「文化的事業を行う場とすること」の三つの柱を基本として運営に携わって参りました。最近では、NHKの連続ドラマ「花子とアン」の影響から資料館への来館者も倍増しておりますが、こうした状況を受け、さらに当施設について広く発信を行うべく「宮崎兄弟資料館だより」を発行することとなりました。これからも、日中友好の懸け橋のシンボルとして、また、荒尾市が世界に誇る文化施設として、宮崎兄弟の生家施設を後世に残すことができるよう、なお一層力を注いで参る所存でございますので、皆様方のさらなる御支援を賜りますようお願い申し上げます。

宮崎兄弟の生家施設所長 安田信彦

## 宮崎兄弟研究事業

### —経過報告①—

荒尾市教育委員会・生涯学習課では、平成26年度～平成28年度の三カ年にわたって、宮崎兄弟に関する研究の一層の促進を目的とする「宮崎兄弟研究事業」に取り組んでおります。

今年度は、

- ①宮崎兄弟生家所蔵・寄託史資料の整理
- ②宮崎兄弟に関する先行研究の整理
- ③宮崎兄弟に関する研究

の大きく三つの課題に取り組んでいます。以下、この三点について経過報告をいたします。

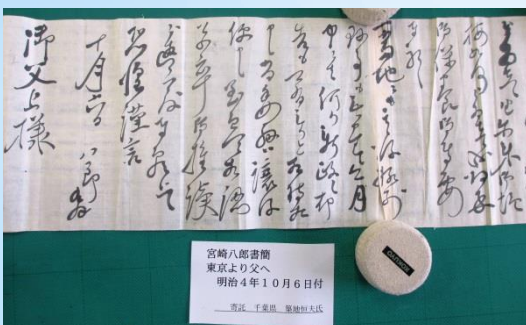
#### ① <資料の寄贈について>

##### ・宮崎八郎書簡の寄贈

宮崎八郎の書簡を寄贈して頂きました。寄贈頂いた書簡は以下の通りです。

- (1) 明治3年 東京より父宛書簡
- (2) 明治4年 東京より父宛書簡
- (3) 明治9年 東京より父宛書簡
- (4) 時期不明 尊大兄宛書簡

この4通の書簡のうち、3通については、荒木精之氏により「宮崎八郎史料控」としてすでに公表されているものです。



▲寄贈いただいた書簡の一部（明治4年父宛書簡）

しかし、残りの一通（2）については、論文などでも確認が出来ないことから、現在、当資料館にて分析を行っています。

その成果は企画展として公表したいと思っておりますが、企画展の開催時期などについては現在未定です。開催する際には、改めてお知らせいたします。

尚、この史料については、当初、神戸市にある孫文記念館に寄贈の依頼があったのですが、「宮崎八郎の史料は荒尾市が保存活用することが適当ではないか」という孫文記念館様の配慮により、荒尾市への寄贈が実現することとなりました。今後とも館同士の連携をはかっていきたいと思っております。

#### ・孫文扁額「博愛」の寄贈

孫文の扁額「博愛」を寄贈して頂きました。今回の寄贈は、「経年劣化していた孫文直筆の扁額「博愛」が保管されているが、孫文と縁のある宮崎兄弟の生家施設に修復・寄贈されたい」という寄贈者の御厚意によって実現したものです。寄贈頂いた扁額は絹本に書かれた大変珍しいものですが、そのために劣化しやすく常設することは難しく、現在は見る事が出来ません。今後、資料館自体の照明設備なども含めて、活用の仕方を検討していきたいと考えています。



▲「博愛」扁額寄贈・感謝状贈呈式の様子

この他、これまでに御寄託・御寄贈頂いた史資料に関しても、今後は整理・研究・分析を重ね、資料館にて公表していく予定です。



## ②&lt;宮崎兄弟に関する先行研究の収集について&gt;

「宮崎兄弟研究事業」を促進するにあたって、現在、宮崎兄弟に関するこれまでの研究論文、書籍の収集を継続的に行っております。これらの先行研究の整理、またそこから新たに見出されるであろう課題については、今後「宮崎兄弟資料館だより」などの場を通して紹介していく予定です。

## ③&lt;宮崎兄弟に関する研究について&gt;

現在、宮崎兄弟の先行研究の整理と並行して、宮崎兄弟の研究を進めています。当市による宮崎兄弟に関する研究は、20年前の宮崎兄弟資料館開館の時点からほとんど行われていないのが実情であったのですが、3年前に辛亥革命100周年を迎えたことなどをきっかけに、宮崎滔天に関する研究もいくつか出てきており、また中国やシンガポールの孫文関連施設との交流がさかんになってきているなかで、20年の研究の空白を埋めることが肝要であると考えました。

近年の研究でも特に指摘されているのが、孫文の革命運動支援をはじめとした「アジア」に対する、宮崎滔天の姿勢です。これは従来より指摘されてきていることですが、現今の状況を見ると、宮崎滔天の思想や活動に再び光を当てることは、今後の日本のアジア関係を考えるうえでも重要な手がかりになると思われます。

また、孫文の革命運動支援という点、どうしても滔天に記述が集中しがちです。しかし、滔天だけでなく、宮崎民蔵も「土地均享」を実現することを目指して、中国革命を支援しています。さらに、宮崎滔天の息子である宮崎龍介も、戦時中には、時の首相・近衛文麿により進められた蒋介石との和平工作の特使となりました。この和平工作自体は龍介が憲兵に拘束されたことにより頓挫してしまいましたが、こうした事実から、近代日本のアジア政策の転換点には、浅からず宮崎家関わっていたことが分かります。こうした歴史を広く周知のものとするため、そして宮崎兄弟資料館においてもそうした国際交流の大切さを伝える展示を広げていくための研究は、今始まったばかりですが、温かく見守って頂きたいと思えます。

今後は、特に③の宮崎兄弟に関する研究を進展させ、「宮崎兄弟研究事業」の成果を随時公表していく予定です。将来的には、この研究事業の成果を、宮崎兄弟資料館にも反映させ、宮崎兄弟研究事業の目的である「1. 市の将来の発展の道を探る糧とすること、2. 住民特に子どもたちが郷土の歴史に関心をもつ一助とし、郷土を誇りに思えるようにすること、3. 貴重な文化的史資料を収集保存し、今後の教育や研究にいかせるようにすること」を現実化していきたいと考えています。そして、宮崎兄弟の生家施設を、日中交流促進に資することの出来る施設として、活用していきたいと思えます。

次回も、課題①・②・③についての取組みの経過報告をするとともに、具体的な研究の成果内容を公表する予定です。

## &lt;行事&gt;

## ・4/13 牡丹鑑賞会・安田所長講話

(当日の様子)



当日はあいにくの雨でしたが、午前・午後と二回おこなった所長講話に、あわせて29名の方にご参加頂きました。講話では、滔天が300人を超える中国人と交流を行ったことこそが辛亥革命につながったことなどが述べられました。

## ・5/20~6/1 牡丹 文芸・美術展

(会場の様子)



今年初めての試みとして、生家の庭に咲く牡丹を題材に、市民の方々から写真・絵画・俳句の3部門より作品を出品して頂きました。

## ・6/16 平成26年度 荒尾市宮崎兄弟の生家施設運営委員会

(概要) 平成25年度の事業報告・決算報告とともに、平成26年度の事業計画(案)・予算案の報告を行いました。委員からは、宮崎兄弟について、小学生や中学生など、若い世代に積極的に伝えていくよう働きかけるべきことなどが提案されました。

## ・8/23 宮崎兄弟資料館 夏休み子ども教室

(概要) 運営委員会での提案も受けて、今年度初めて夏休み中の子どもたちに、郷土についてもっと知ってもらい、誇りに思ってもらおうきっかけづくりをしようと、宮崎兄弟についての講座と資料館見学を実施いたしました。



## 所長の独り言 ①

現在、宮崎兄弟の生家の庭には、神戸の孫文記念館から譲り受け種子より育てた「日中友好の朝顔」と名付けられたローズピンクの花が毎日独特の花を咲かせております。この朝顔は清王朝の末裔「愛新覚羅溥傑・浩夫妻」が北京で大切に育てておられたもので、夫妻の次女福永嬢生(こせい)氏を通じて神戸に届けられ、それからとられた種子を本年当施設が頂いたものです。中国、神戸、荒尾と結ぶ友好のシンボルとして、夏の風物詩となり、生家の貴重な財産としてにぎわいに貢献してくれるのではと期待しております。

ところで敷地一千坪弱の生家施設には、四季折々に親しまれ愛される野趣味溢れる庭園があり、市民や多くのファン、リピーターの憩いの場所となっています。初春には菅原道真公ゆかりの宮崎家が大宰府から移し植え、孫文二度目の来荒の際の記念写真の背景となる樹齢二百五十年を超える「中山梅 友情の梅」と名付けられた白梅が他の九本の古木と併せて、あたりに芳香を漂わせ咲き競います。その後スイセン、彼岸花が群れ咲き、トサミズキの黄色い花が開花するのもこの頃です。四月になると六本ある桜が満開となり、名物の牡丹園はゴールデンウィークまで来客が絶えません。牡丹茶会も恒例の行事として開催されます。アンズの花も二本の大木にピンクの花をびっしりつけ華やかです。六月になると滔天が明治二十八年にシャム(現在のタイ)移民の際に持ち帰ったとされる菩提樹がお香に似た高貴な香りを漂わせ薄黄色の珍しい花を咲かせ、見学者も多数あります。梅雨にかけては、白百合に紫陽花の季節です。また、初夏から九月いっぱい、「草取り、草刈り、蚊」の襲撃に悩まされながらの一番手間のかかる大変な時期です。十月以降は紅葉とともに、「音と光の祭典」「JRウォーク」「滔天俳句大会」などイベントが続き賑わいます。こうしてゆった

り滔々と生家の四季はうつろうのですが、俳句、絵画、写真他の愛好者に親しまれ、老健介護施設のレクリエーションの場としての利用の増加など、市民理解の上で庭園や樹木の官吏が大きな柱であると考えています。皆様の激励を励みとして施設職員一丸となあつて整備につとめる所存です。折々につけ、生家の縁側に腰掛けて四季の移ろいに身を委ねていますと、晩節を迎えた自分がまだ真剣に向き合えるものをもっている幸せを感じています。(安田)

## <今後の予定(9月1日～)>

- ・パネル展「宮崎龍介展」(9月2日～11月30日)
- ・リレー講座「宮崎龍介と白蓮」(10月4日13時～)
- ・第9回音と光の祭典(9月27日)
- ・JR九州歴史探訪ウォーキング大会(10月4日)
- ・滔天俳句大会(12月予定)
- ・文化財防火デー(防火訓練、1月予定)
- ・春の華展(3月予定)

※詳細を知りたい方は荒尾市教育委員会(☎0968-63-1681)までお問合せください。

※皆様の御来館をスタッフ一同、心よりお待ちしております！

## ～編集後記～

「宮崎兄弟研究事業」が始動したのに合わせ、その一環として今年度より「宮崎兄弟資料館 館報」を発刊することとしました。宮崎兄弟生家施設での取組みを、多くの方々にご紹介できるような内容の充実に努めていくつもりですが、今後どのようにみなさまに情報を発信していけるのか、館報内容については依然模索中です。

しかし、今年度・前期には幸いなことに、NHK連続テレビ小説「花子とアン」の人気の影響を受けて、当資料館にも多くの方が足を運んでくれるようになりました。これを入口として、宮崎兄弟について知って頂ければ、これ以上の喜びはありません。そうした方々のご希望に沿えるよう、展示内容の改善はもちろんのこと、展示会の企画や講座の開催など、スタッフ一同努力をしていく所存です。今後も、当資料館の活動を積極的に公開するとともに、地域に開かれた、地域に根付いた資料館をめざしてまいりますので、当市「宮崎兄弟生家施設」の取組みへ皆様の御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

## ～次号予告～

次回の「宮崎兄弟資料館・館報」2号は、**2014年3月**に発行予定です。

内容は、

- (1) 宮崎兄弟研究事業 経過報告②
- (2) コラム-宮崎兄弟こぼれ話②-
- (3) 宮崎兄弟生家ニュース(行事など)
- (4) 資料館所蔵の資料紹介①

を予定しております。その他、何か掲載内容についてご意見・ご要望があれば、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail: [mai.50083@city.arao.lg.jp](mailto:mai.50083@city.arao.lg.jp)

(担当:野田【荒尾市教育委員会】)